

式拾壹を八に尺と寸を三倍して割る

九寸幅の本綿を倍代銀八尺に寸は本綿幅七寸代銀を同

言曰に女式

初曰又女に寸を幅九寸と刻幅も寸長も倍代銀と寸を幅七寸よりけり

そ尺式寸幅の本綿長式六尺代銀九尺は本綿幅寸長式六の代銀と同
言曰に女八寸

初曰九尺と二丈八尺と刻も尺代銀三丈一尺を是を幅も尺式寸と刻
幅も寸長も尺代銀三丈を是と幅八寸を付けて長も尺の代銀
式寸に尺をけり是も長式式丈一尺をけり

そ尺幅の本綿長式六尺の代銀七尺をけり本綿銀に女は
幅八寸より長を同
言曰式丈

初曰七尺を長式六尺と刻も尺代銀式丈一尺を是と八寸と掛
長も尺代銀式寸をけり法よりて尺を刻る

○右の通り各柄活の俵と蓑を布と綴柄とより統と糸
除の敷をとは自ら束ねては不_レ及_レ長_レ ぬるもの
も約めて先より刻りの約めて後より括柄とを
於_レ是_レ其_レ法_レを_レ記_レと

幅も尺六寸長式尺の緒の代銀拾八尺

より幅九寸六分長も尺八寸の代銀を同

言曰八尺を寸

初曰幅も尺六寸と長式尺をうけ寸歩三百式拾方より幅九寸六
分の長も尺八寸をうけ百七十式歩八分より拾八尺をけり

三百式十歩

三百六十歩を刻之

拾八歩を三百六十歩にてより一歩の代銀あり
是より七十歩八分をうけるを先後一とすなり

二寸角は百九拾八枚のかより二寸角を二枚敷と同

言曰八百八拾枚

初曰三寸うけ合九歩にすとのけ合十六

十六歩

九歩

歩は百九十八枚と然七十九歩と九歩を刻なり

式入寸より代銀三百六十歩の代銀拾八枚より三寸角の

柴六百歩の代銀を問 言曰二拾用

初曰式入寸とけ合三百六十歩とけ

そ又与りれ敷式入寸と三寸と

合入百歩とけは式入寸の敷に式入寸

先と拾八枚とけ式入寸と三寸と刻なり

日	日	日
日	日	日
日	日	日

如く三寸とけ合三百六十歩の敷はツカリけ敷を推て与りて三寸角の敷は
なり 十八枚と式入寸と三寸とけ合三百六十歩の代銀なり先と拾八枚とけ式入寸と三寸とけ合三百六十歩の敷はツカリけ敷を推て与りて三寸角の敷はなり

幅三寸長二間本を通りての挽銀銀を問

の挽銀銀を問 言曰式入寸合入寸

初曰長式間幅三寸とけ長を間挽

幅を寸の敷六ツなり長三間幅入寸を

のけ挽幅拾八枚なり先と八分とけ六と刻之

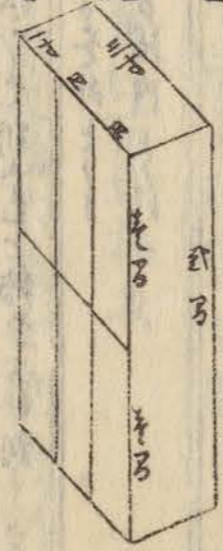
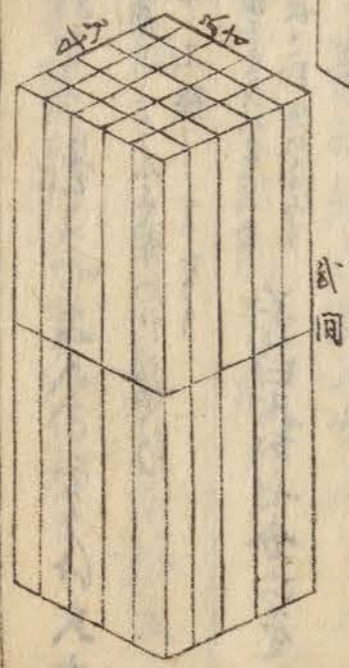
八寸角の式間本を代銀七枚合入りて八寸角の三間本を代銀を問

言曰式拾八枚八分

初曰八寸をのけ合長式間

をうけ是寸角を間本八十

なり八寸とのけ合長三間を



かけます角長を間本百九十八分なり是より七ぬふをうけ又十
よて割なり
七ぬふを八十八割を角長を本本本の代銀なり
これ百九十八分をうけるを先後しるなり

八寸角の長三間本六分の文敷を同 但し文敷は三寸角
長と三間のなり 善曰又本七分六厘

初曰八寸をわけ合長三間と六本とくけ是又角長を間本拾を本
又分式なり 八寸角をうけ合せ長三間と六本とくけ是又
角を間本と六十分なりは是又をうけ合

長をうけ合せ是又角長を本本本之法なりて又五分を割と是又二の倍
とれば八寸の八分なりは是又をうけ合せ六分を又長三間と六本とくけ是又五分を
是又をうけ合せ一なり是又をうけ合せ七なりは是又をうけ合せ七なりは是又をうけ合せ七なり

○ 増減之部

一 一より七増減するを外と一
一より七増減するを内と一

銀三百七拾又五を外式割増しより銀多と同

善曰二百八拾目

初曰式割又五と加へ式割又五と三十七拾又五をわけなり

銀三百七拾又五を外式割み分りより銀多を同

善曰式百六拾目

初曰式割又五と加へ式割又五と三十七拾又五を割なり

銀九拾又五と内式割増しより銀多と同 善曰百計拾又

初曰一の他式割を引余八分を法より七九拾六又と割なり

銀拾八又五分内式割引より七銀多を同 善曰拾に又八分

初曰一の内式割引余八分と法より七拾八又五分わけりなり

内式割の外より何割又あると同 善曰外式割又分

初曰一の内式割と引余八分と法より七式割を割なり

銀を貫八百と内に分りより七銀多を同 善曰貫八百に拾又

初曰一の内に分ると引余九分六厘と貫八百よりけりなり

米を石の勘を石六斗うして勘六斗は并の米并敷を同

善曰に本

初曰六斗は并を石六斗うして割なり

遠國(米八斗十分石積下は是石又并の石積を積米の内
そ後と石積米并層米を同

善曰 層米八斗に拾石 石積米に拾石

初曰米石又并と加へ法うして八斗八拾石と割を層米なり
これ又并とくけて石積米なり

米を石の代銀に拾石又石斗うして七斗拾石積下は是石の石積
銀式石斗うして積米の内を法と石積米層米を同

善曰 層米六斗八拾石又斗 層米三拾七石又斗

初曰七斗拾石石斗に拾石又石斗うして三拾石費七斗六拾石之實
してに拾石又石斗と割石又石斗を加へ法うして實を割層米なり
これを七斗拾石の内とて割層米なり

水綿百石拾斗して七斗拾石又石斗うして八斗八拾石の干綿并敷を同

善曰六十八分

初曰百石拾石を石八拾石割内式割減なり八拾石と分けり
そ而石拾石と割米の綿八斗八拾石又石斗うして三斗用を分け石拾石共石斗又なり
これ八斗をくけて拾石共石斗用と分けり三斗用とて割六十八分と分けり三斗用をくけて石拾石共石斗用と分けり

善曰九分九厘

初曰百石拾石用の石拾石割内式割減なり百石を法うして銀九分を
干綿百石代銀に斗又石斗うして百石拾石用の石拾石割内式割減なり

○利息之部

銀百匁二月式匁の利ありて元銀貳貫八百匁三月の利銀と同

善日三百匁

銀百匁六月式匁の利ありて元銀百匁六月の利銀拾匁なり
これ又貳貫八百匁をかけるなり

元銀六貫目を月を今までの利ありて又十式ヶ月の利銀を同

善日に貳百八拾匁

銀百匁一分半又十式ヶ月をうけ七拾八匁なりこれ又元銀六貫目

をかけるなり
五分の利は元銀百匁を今までの利ありて又十式ヶ月の利銀を同
これ又二十ヶ月と六貫目をうけるなり

年式割ありて三年の利銀八百匁あり元銀を同

善日貳貫八百匁

銀百匁四月を式割ありて割元銀之
割割り元銀百匁を今までの利ありて又十式ヶ月の利銀を同
これを法ありて利銀をうけるなり

元銀貳貫目を年を割五分の利ありて三年の利銀を同

善日三百匁

銀百匁貳貫目を年を割五分をうけるなり
五分の利は元銀百匁を今までの利ありて又十式ヶ月の利銀を同
これを法ありて利銀をうけるなり

元銀三貫目を年一割五分の利ありて七ヶ月の利銀と同
元銀一貫目より

善日貳百六拾匁又

銀百匁式割五分を十二月又割元銀百匁三月の利銀拾匁なり
又元をうけるなり七月と二貫目をうけるなり

元銀貳貫八百匁を年を割の利ありて三年の元利を同
利息

善日貳貫九百九拾六匁

銀百匁式割五分を加へ一とあるを貫八百匁より三年の元利を同

六百八拾五をうり是又一一をうけ二年の元利是量八拾五をうり
又これ又一一をうけて三年の元利は是なり

年式割の利うて是年元利合銀三貫目なり利銀を問

善曰二百目

術曰式割は元一を加へ法うて三貫目を別元銀式量二百目と
又式割をわけて利銀なり

年式割の利うて是年元利合銀九百七拾六分は是なり
元銀を問 式年目より
利は利と加へ

善曰式貫目

術曰式割は元一を加へ是式と量るをわけて合を二に
をうけ合式七三六と量るこれ又是式をうけて二に八三式と量るを

法うては貫九百七拾六分は是なり 利を別元銀を量りて是を
割をわけては是なり
利のいづつをもうけ合法うて別元銀は是式と量りては是なり 利をわけては是なり
をうけ合二七三六は是なりこれ又是式をうけては是なり 利をわけては是なり

銀而目は月式量りの利うて元利月純り月教を問

善曰二十目 術曰利銀百目を式量の利を別元銀なり

元銀而目と是月の利銀式量りて九ヶ月の元利合せ三百八拾五を
け元銀を問 善曰三百目

術曰式量り九ヶ月をうけ拾八分元百分を加へ法はて三百八拾五を別元

元金拾式量り歩は是ヶ月の利金を歩うて元銀三拾量り又
月の利銀を問 これを十二式歩
を歩の利と量り 善曰三貫目

術曰拾式量り元一をうけて式歩を加へ元金又拾歩法うて元銀三
拾量り元利は百文之元は又九ヶ月をうけるなり 元金八十共
利金を歩と別

○物成於散之部

是町三千歩 是及三百歩 是畝三十歩

田是町式及八畝あり是及是石八斗代して分米を問

答曰分米貳拾貳石又斗

術曰是町式及八畝又是石八斗をりけるなり

田三五畝十又歩あり是及是石八斗代して分米を問

答曰又石三斗貳升又合

術曰拾又歩と三十歩と刻尺分之二及八畝を加へ是石又斗と無るなり

高八万貳千三百六十石は物成ふして物成を問

答曰貳万九百九十石

術曰八万貳千三百六十石は斗とりけるなり

是石をに斗と
まうはにっしん

物成貳万九百九十石あり是石は米三斗ありては米を問

答曰六百貳拾八石三斗貳升

術曰貳万九百九十石は米三斗をりけるなり

物成是石は米三斗又米六升ありては米又米合七百八十

七石又斗の物成をを問

答曰八千七百八十石

術曰は米三斗又米六升合九升法して七百八十七石又斗と刻之

是石又斗代の分米又石三斗貳升又合田畝を問

答曰三五畝十又歩

術曰又石三斗貳升又合を是石又斗と刻三五及八畝又分とりけるなり

又分より一三十歩をりけるなり

物成貳万九百九十石ありは物成ふして高を問

答曰

増補文正 再反文註日大全

善曰入万貳千三百六十石

御曰貳万九百七十石とに斗うて割ちり

解るの

高又万貳千三百六十石の物成貳万九百七十石とに石之物成の教を同

善曰にッ

御曰貳万九百七十石と入万貳千三百六十石とを割ちり

扱形のも入儀との留りま儀ちりて扱儀教と同

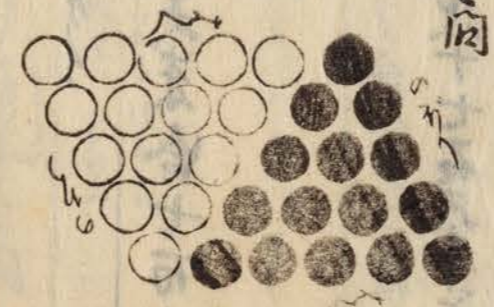
善曰十八儀

御曰掃入儀と留りま儀を加へるれよ

の留り入儀をうけ三十とぬを二ッ又割ち

上の留りま儀ちりレバ下の掃との留りの

教と同ぬへれと入儀の留り入儀ちり



扱形の下掃入儀留り三儀ちりて扱教を同

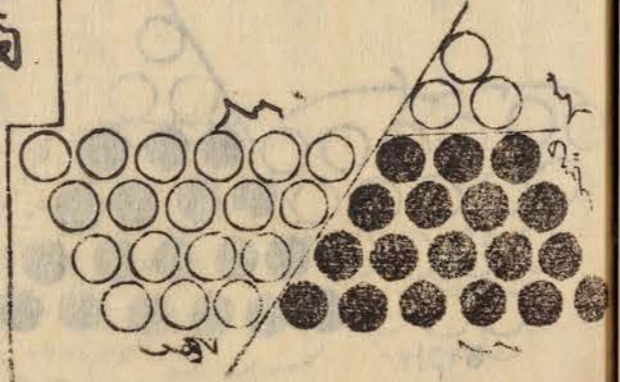
善曰十八儀

御曰下入儀の内留り三儀引ま儀加へ

の留り入儀とぬを二ッ掃留り合て九儀

をうけて三十六儀とぬと二ッ又割ち

是は是とい儀ちりまうれけの留りま儀ちり



扱形の上の留り三儀登りに儀ちりて扱儀教と同

善曰十八儀

御曰留り三儀を倍ちりて登りに儀と加へ内一儀引上下合九儀

とぬふの留りに儀をうけて二ッ又割ちり

内ま儀引余下の入儀ちりまうれけの留り三儀

増補文正 再反文註日大全

六十一

折形の下換六儀登りに儀うて惣教を問

言曰十八儀

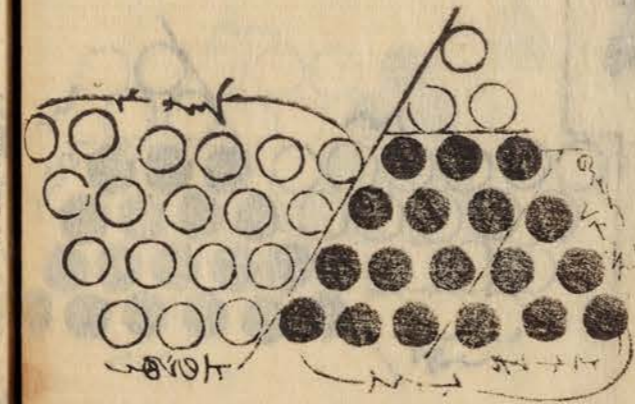
初日下換六儀を倍して登りに儀を引余へき儀加へ下
合せ九儀とあるふのなりは儀とうけて二に割なり
下換の内のなり
に儀引余は倍

を儀加へ上のときより三儀なりこれより下へ
六儀をより下へ合せ九儀と倍を倍するなり

折形十八儀登りに儀うて下換
上り留りを問

言曰上り三儀下へ六儀

初日のなりは儀の倍を引余と下の
差三儀なり 積十八儀を倍して登り
に儀引余と下合九儀の内は三儀引余



二に割上の留りなり是より差三儀加へ下のよりなり

折形積子儀登三十日儀うて上り留り下のより 差三儀
儀教を問

上留十八儀

下換十八儀

差三十儀

初日登三十日儀の内を儀引余と下の差三十三儀なり
子儀を倍して登り儀を登三十日儀を倍して割る
偶なる偶は割る奇なる偶は割る奇なる偶は奇なり
割る十七儀とあり六十八とあり差三十三儀を加へる二に割
下のより十八儀と差三十儀なり下のよりとの内三十三儀
引余上の留り十二儀なり

解茶の圖

少して 三十八石 米を代銀 六十 をつけ 米百 加へ 米

十日 法より割なり

米を石の代金と銀又之を拾石の代金と拾石を代金と
米を石の代金と銀又之を拾石の代金と拾石を代金と

言曰六拾石

初日右式より米と銀 各拾石 をつけ 金拾石 花月

金拾石 互に減ト 右拾石 余石 拾石

歩米 米を代銀 六十 をつけ 米

西國にて米石拾石の米に百八十石米國へ送り金と銀と
九斗六升より米と銀と

言曰六拾石

初日米 九十 を代銀 六十 をつけ 米 内利金

米 法より米 九十 米を代銀 六十 をつけ 米

目を法より割なり

銀を拾石貫目代乃米に百八十石を米國へ送り利金

百石あり金と銀と六拾石よりして金と銀との米較

を同 言曰九斗六升

初日銀 六十 を代銀 六十 をつけ 米 利金と

加へ法より米 九十 を割なり

銀を拾石貫目代の米と米國へ送り金と銀と
賣拂利金百石あり金と銀と六拾石よりして米と

言曰百八十石

初日銀 貳十貳 を金を 貳 代銀 六十 して刻元令 貳百 利令 貳百 加へ 又百 金を 貳 の末 九 をうけるなり

金拾八両と銀拾七貫文代銀合を貫貳百八拾四両金を 貳 銀又貫文 一 して金 貳 銀 貳 貫文代銀を問

答曰 金六十両 銀拾貳両

初日金 十八 又銀 八 とうけ 九十 銀 十七 加へ 百七 法 一 して銀 五 貫文 一 と刻銀 五 貫文代銀 一 又 一 とうけ 金 銀 一 代銀 一

銀拾貳貫二百文の代金貳両と銀貳拾八両七分又原金を 貳 の代銀又貫文 一 して金 貳 銀 貳 貫文代銀を問

答曰 金六十拾貳両八分 銀拾貳両八分

初日金 貳 又銀 八 をうけ 十 刻 三 の用 一 刻 三 法 一 して銀 七 貫文 一 を刻銀 五 貫文 一 代銀 一 たり 又 金 一 代銀 一 たり

西國にて金を 貳 石 九 斗 九 升 八 の末東國へ 一 港 一 金を 貳 石 八 斗 九 升 八 又井 一 斗 九 升 八 利令 三 百 一 元金を問

答曰 七百八拾両

初日利令 三 百 一 又 八 年 一 をうけ 利 末 貳 百 一 又 八 年 一 実 一 して 金 銀 一 の末 九 斗 九 升 八 を 一 刻 三 年 一 して 金 銀 一 たり

銀貳百 一 又 八 年 一 の 金 銀 三 百 一 又 八 年 一 して 金 銀 一 貫 一 の代銀を問

答曰 拾貳両

初日銀 貳 百 一 又 八 年 一 の 金 銀 三 百 一 又 八 年 一 して 金 銀 一 貫 一 の代銀 一 又 八 年 一 法 一 して 金 銀 一 たり

つて銀三を割銭を貫文乃代銀なり

積十六文又次茶入十日銀四に上茶入十日次茶入代銀
と茶入代銀の差を倍し茶入代銀一貫文乃代銀を同四
茶入代銀
又十回なり

言曰上茶入代銀 貳文 積 拾貳文

初日積十六を次茶入二十を割銭乃の貳百又ようけ酒後法十回して

銀四を上茶入二十を割銭乃の貳百又ようけ上茶入代銀

内上下の差を引余五又九六をうけ法して割銭を貫

文代銀なり酒後八十五を九六に割法して差を割
又三を法して九六をうけて割なり

積十六文又貳拾文乃の茶入を又貳拾に八分なり積
を貫文代銀の金を又代銀の又拾文なり金積茶入

を又貫文を代銀を同銀一茶入を
貳百又十五

言曰積拾貳文 金六拾貳文 茶貳文又分

初日積十六を茶入二十を割茶貳百又をうけ茶入代銀

を又の茶貳百又ようけを又の酒積九百六内酒積九百六

引余五法して差五又九六をうけ法して割銭五を

又を加へ金五を又の茶貳百又を割茶貳百又積茶の

○第二

金拾貳文と積十貳貫文代銀合八百又拾貳文金を又代銀分
積を貫文代銀の拾九文か金を又積を貫文代銀を同
言曰金を又六拾目 積を貫文拾を又

初日合銀八百又と十二又割を又と貫文代銀合七拾内差銀九文

引余二の別積を貫文代銀に足^{に十}を^九加へ金を^九代銀なり

金拾一の代銀より積六貫文代銀の八百八拾八文少金を^九代銀の積を貫文代銀に拾八文少金を^九代銀を貫文代銀を同

答曰 金六拾同 積拾貳文

初曰 差銀^{に十}八文^は積^六を^うけ^て八^百八^拾八^文

差銀^{に十}八文^は引余^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

金^{に十}六^拾同^は法^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

金を^九代銀なり内差^{に十}八文^は引余^{に十}積を^九代銀なり

金を^九代銀に貫八百文金を^九代銀に積を^九代銀に拾七文少金を^九代銀積を貫文代銀を同

答曰 積拾貳文少 金六拾同

初曰 金を^九代銀に貫八^百の内^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

別積を貫文代銀なり^{に十}は^九加へ^て金を^九代銀なり

金を^九代銀に貫八^百の内^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

金貳の三歩の代積拾三貫貳百文金を^九代銀より積を貫文代銀に拾七文少金を^九代銀積を貫文代銀を同

答曰 金六拾同 積拾貳文少

初曰 金^{に十}三^拾同^は法^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

引余^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

差銀^{に十}八文^は引余^{に十}を^うけ^て八^百八^拾八^文

金九拾八文と積拾貳貫文代銀金三貫三同金を^九代銀より積を貫文代銀に拾八文少金を^九代銀積を貫文代銀を同

算言の全

